

私たちが の 挑戦

企業のいま

より品質の高い金管楽器の開発を目指す会社が一九九九年十一月、楽器の町に生まれた。浜松市将監町のベストブラスだ。ヤマハで十八年間、楽器設計に携わった浜永晋一社長(四四)が独立した。

「会社勤めの身では限りがある。夢を追いたい」。希望退職の募集に応じた。日はまだ浅いが、ヤマハ時代に自ら考え出した世界初のトランペット消音器をさらに改良、小型化した新製品を開発した。四月末から売り出しを始める。

トランペット演奏を学んだ大学時代、長さの短いピッコロトランペットを手作りしたことが、この道に入る原点だったという。中学校教師をへて入社した。

ヤマハではトランペットやテューバなど金管楽器の設計を手がけた。とりわけホルンは、すべて浜永さんが設計し世に出した作品という。

九四年、「トランペットの音が出ないようにできないか」という企画が持ち上がった。ちょうど同社がサイレントピアノに力を入れ

消音器さらに小型化



ていたころだった。トランペットの音は一〇五デシベル。ガード下で電車が通る。それが浜永さん

り過ぎるのを聞く程度の音量という。それが浜永さんが研究に乗り出して一年後、小声で話す程度の七五デシベルまで音を小さくする消音器の開発に成功した。

先端に差し込んだ消音器はアンプとつなげられ、さらにアンプからのヘッドホンで、普通に演奏しているように音が聞けるという画期的な装置だった。

当初、年間売り上げ目標は国内一万个だったが、わずか二カ月の間に三万个が売れた。注文に応じきれないほどだったといい、外国にも出荷した。

今回、新たに開発した消音器はさらに性能を高め、従来のものより型も音も小さくなった。浜永さんは「音もこもらず、より自然

な音色が出せるようになった」と説明する。

消音器に電子回路を組み込んだため、アンプは要らない。コードが絡まったり外れたりすることもなくなった。CD再生機とつなげば、伴奏付き演奏も練習できるという。

ベストブラスでは、このほか、トランペットに息を吹き込む「吸口」や、音色を変え弱音器も商品化している。

浜永さんは「演奏家など」と意見を交換しながら、今まではない楽器をつくりたい。品質の高い製品で音楽の発展につなげたいです」と話している。

ホームページのアドレス

http://www.5a.biglobe.ne.jp/~bestbra

松市将監町で

5/